

大阪国際空港 (ITAMI) がリニューアル 4月18日に中央エリアが 先行オープン

2020年の全面リニューアルに向けて改修が進む大阪国際(伊丹)空港で、4月18日に中央および屋上エリアが先行オープンする。これまで航空会社ごとに1階南北に二分されていた到着口は、2階中央に集約。また、到着口からペデストリアンデッキを歩いてバスやタクシー、モノレールなどの乗り場にダイレクトに接続でき、利便性が向上する。

中央エリアでは、商業施設が全面リニ

ューアルし、空港初・関西初出店などの30店舗が出店する。3階には、空港としては世界初となる、ワイン醸造所を併設するワインバル「大阪エアポートワイナリー」が誕生。ワインタンクや醸造風景を眺めながら、店内でワインや料理を愉しむことができる。屋上エリアでは、展望デッキの面積が従来の1.5倍に拡大。航空機を眺めながら食事できるカフェ「NORTHSHORE」や子ども向け施設「ボーンランド あそびのせかい」も初出店する。



世界初、空港内のワイン醸造所。空港を経由地ではなく、目的地になる新たな楽しみ方のひとつとして誘致したという。



屋上エリアの展望デッキのイメージ。

**便利で快適
ワクワクいっぱい**のスポットに

グランドオープン時には、保安検査後のエリアにもウォークスルー型の商業施設を設置予定。担当者は「完成すれば、早めに搭乗手続きを

終えた後は、搭乗時間まで食事や買い物をゆっくりお楽しみいただくことができ、空港での時間の使い方が変わる」と話す。搭乗前や到着後はもちろん、航空機の利用時以外でも家族や友達と出かけて食事や買い物を楽しめる空港に生まれ変わり、観光スポットとしても注目が集まりそうだ。

追手門学院大学 チアリーダー部が世界1位に

アメリカ・フロリダ州で1月に開催されたチアリーディングとチアダンスの世界大会「大学ワールドカップチアリーディング選手権」に、追手門学院大学チアリーダー部が日本代表として出場。チアリーディング部門「Elite All Girl」カテゴリとチアダンス部門の「Team Cheer Pom」カテゴリにエントリーし、「Elite All Girl」で1位、さらに出場9カ国中でも1位に輝いた。

**少数精鋭、16人で挑んだ
世界大会の大舞台**

取材に訪れた体育館で練習をしていたのはチアリーディング部門の13人の学生たち。大会へは4年生と共に16人で出場した。「世界大会に両部門で出場することがずっと目標でした。人数が少ない分、全部員が目的意識をしっかり持って練習ができたと思います」と新4年生でキャプテンの山川はる

菜さん。これまでやっていなかったミーティングを自発的に週2回開くようにしたり、演技の完成度を高めるためにビデオチェックやドリル練習を行ったりと、心身両面でのレベルアップを図ったことが実を結んだ。



キャプテンの新4年生山川はる菜さん。アメリカのチアダンス大会で優勝した福井商業高校出身。

**米国で活躍したコーチが
チアスピリッツを伝授**

世界大会への出場は、チアリーディング部門では今回で3回目、チアダンス部門では初めてだ。就任4年目の小島智子ヘッドコーチは、全米で高い人気を誇るNFL(プロアメリカンフットボールリーグ)でチアリーダーに所属した経歴を持つ。3年前には、チアリーディング部門しかなかった同大学にチアダンス部門を作った。

本場仕込みの技はもちろん、観る者に元気と笑顔を届けるチアスピリッツを伝授している。

次の目標を「2年連続世界大会出場と両部門1位」と掲げる山川キャプテン。「自ら限界を作らず、達成する楽しさを知ってほしい」と小島ヘッドコーチは意気込みを語った。

組体操を取り入れたアクロバティックな技が特徴のチアリーディング。



ヘッドコーチの小島智子さん。NFLに日本人最長の8年間所属し、最終年には、NFL史上初の日本人キャプテンとして活躍した。心身ともにチームを支えている。

豊能町のシティプロモーション ブランドメッセージが決定

豊能町では、地域との協働により、まちの魅力を表すブランドメッセージ「曲がりくねって、ただいま。」を作成した。町の担当者は、「地域の人それぞれ意味を感じ取ってほしい」と話す。同町では、町民がまちの魅力を再発見し、地域外へ発信していくことを柱としたシティプロモーションを推進しており、その



メッセージづくりには、町内の各小中学校の生徒も参加。

一環として今回のメッセージ策定となった。町民がまちの魅力を洗い出しから現地調査や編集を行い、コンセプトの決定からメッセージ案の作成を行い、公募も実施。全513案の中から審査会で決定された。

今後は、地域住民とともに新たな魅力を創造したり、事業を展開していく考えだ。

川端康成が学んだまち 茨木市が文学賞を創設

今年市制施行70周年を迎える茨木市が、記念事業として「川端康成青春文学賞」を創設した。昭和43年に日本人で初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成は、幼少期から青年期までを茨木市で過ごし、この地で作家を志したという。選考委員には芥川賞作家の羽田圭介氏や津村

同賞のキャッチコピーは「小説の傑作が出来るをうたがわない」。旧制茨木中学校(現在の茨木高校)在学中に記した日記の一文から引用された言葉だ。



記久子氏、脚本家の大野裕之氏を迎え、全国から青春を描いた小説を募集する。6月末まで受け付け、12月に大賞などを発表する予定。詳細は茨木市HPにて。

2/1(木)から3/18(日)はサイバーセキュリティ月間 「SNSを安全に使おう」

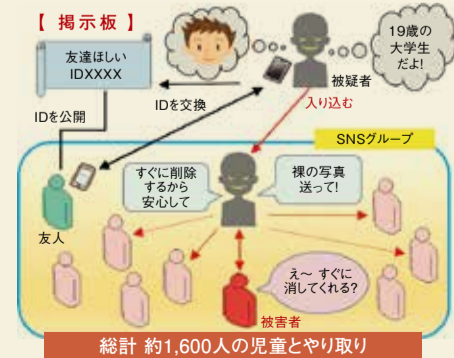
協力:大阪府警察

【具体例】19歳イケメンモデルになりすましたSNSを使った犯行

- 【犯行手口】
- 19歳のイケメンモデルになりすました被疑者が、ネット掲示板を通じて女子中学生と知り合う(お互いにSNSのIDを交換)
 - 女子中学生のSNSグループに招待してもらう
 - 甘言や脅迫により、女子中学生等から裸の画像を送信させる
 - グループ内のほかの女子中学生等からも裸の画像を送信させる(これを繰り返す)

【被害実態】約130人の小・中学生が自分の裸の写真を送信させられる

【検挙】46歳の被疑者を児童買春・児童ポルノ禁止法違反により検挙



友達の友達は「知っている人」ではない。あなたを狙う犯罪者かもしれないので注意しよう!